

事務事業評価表 平成24年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実
 基本事業 教育内容の充実

事業名 **校外学習推進事業**

[0396]

部名	教育部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	学校教育支援室 学校教育課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>スキー授業を受ける小中学校児童生徒</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>当市にスキー場が無い事に鑑み、スキー授業実施に係るバス借上料の助成を行い、保護者の負担軽減を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>学校単位で行うスキー授業のうち、1回分のバス賃借料を負担する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	スキー授業を受ける小中学校児童生徒数	人	6,860	6,562	6,391	6,290
対象指標2						
活動指標1	借上したスキーバスの台数	台	172	181	177	188
活動指標2						
成果指標1	スキー授業に参加した児童生徒の延人数	人	6,752	6,562	6,391	6,290
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	6,019	6,283	6,508	6,909
正職員人件費 (B)		千円	830	806	803	809
総事業費 (A) + (B)		千円	6,849	7,089	7,311	7,718

費用内訳	
23年度	使用料及び賃借料 6,507千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始
背景

事業を
取り巻く
環境変化

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
妥当である
妥当性が低い

理由
・
根拠は？

体育授業の一環である「スキー授業」を行うにあたり市内にスキー場がないので、バスを借り上げてスキー場まで行くことは必要不可欠であるため。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
貢献度ふつう
貢献度小さい
基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

設備の整った（授業のためのよい環境にある）スキー場を利用することは、学習成果が高く、効果的なスキー授業を行うために必要であるから。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
どちらかといえばあがっている
あがらない

理由
・
根拠は？

学校が希望するゲレンデの利用がほぼ満たされているため。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
成果向上余地 中
成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

1回分のバス賃借料の負担が軽減されているが、スキー授業全てのバス賃借料の負担を軽減することは、財政上難しいため。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある
ない

理由
・
根拠は？

近場（札幌、岩見沢近郊のスキー場）に行き先を限定し、コストダウンを図った（H15年度から実施）。